

カリキュラム＜講義と演習＞

1. 職務の理解(6時間)	
科目の細目	講義と演習の実施方法
多様なサービスの理解 (3時間) 通学(3時間)	介護保険サービス、介護保険外サービスについて講義・演習を行う。
介護職の仕事内容や働く現場の理解 (3時間) 通学(3時間)	各種の介護サービス等における介護現場のそれぞれの仕事内容、サービス提供現場の具体的なイメージ、ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまで一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携について講義・演習を行う。

2. 介護における尊厳の保持・自立支援(9時間)	
科目の細目	講義と演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護 (5時間) 通学(1時間)、通信(4時間)	人権と尊厳について講義・演習を行う。介護職が利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚する。虐待防止法、身体拘束禁止等の行ってはならない行動例を理解する。又、介護分野におけるICFの基本的考え方を示す。また、自宅学習・通信課題にて理解を深める。
自立に向けた介護 (4時間) 通学(0.5時間)通信(3.5時間)	自立支援、介護予防について講義・演習を行う。利用者の自立支援とはどういうことなのか、できること(残存能力)についてグループワークを行い、討議する。

3. 介護の基本(6時間)	
科目の細目	講義と演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携 (2時間) 通学(1時間)通信(1時間)	介護環境の特徴の理解、介護の専門性、介護にかかわる職種について講義・演習を行う。事例・体験談等を交え介護職への理解や他職種との連携についての重要性を学んでもらう。
②介護の職業倫理 (1時間) 通学(0.5時間)通信(0.5時間)	介護職における行動規範や社会的責任や姿勢について理解を深める(介護福祉士倫理綱領等を示し、グループワークを行ってみる。)
③介護における安全の確保とリスクマネジメント (2時間) 通学(1時間)通信(1時間)	介護における安全の確保とリスクマネジメント、事故予防、安全対策、感染対策等について講義・演習を行う。介護事故における危険予知(ヒヤリハット)について事例を用い、安全対策の視点を考えてもらう。感染対策における「衛生的手洗いの基本」について実施してみる。
④介護職の安全 (1時間) 通学(0.5時間)通信(0.5時間)	介護職の心身の健康管理について講義・演習を行う。介護職のセルフケアやその予防的取り組みについてグループワークで討議してみる。

4. 介護・福祉サービスの理解と医療連携(9時間)	
科目の細目	講義と演習の実施方法
①介護保険制度 (3時間) 通学(1.5時間)通信(1.5時間)	介護保険制度創設の背景及び目的・動向、仕組みの基礎的理解、制度を支える財源、組織・団体の機能と役割について講義・演習を行う。市町村が発行するパンフレット等で理解を深める。
②医療との連携リハビリテーション (3時間) 通学(0時間)通信(3時間)	テキストに沿って、一定の研修を受けた介護職員等による喀痰吸引・経管栄養の医行為等について、学習や通信課題にて理解を深める。また、リハビリテーション等の医療との連携について、講義・演習を行う。
③ 障害者自立支援制度およびその他制度 (3時間) 通学(0時間)通信(3時間)	テキストに沿って、障害者福祉制度の理念、障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解、個人の権利を守る制度の概要等を、自宅学習・通信課題にて理解を深める。

5. 介護におけるコミュニケーション技術(6時間)	
科目の細目	講義と演習の実施方法
① 介護におけるコミュニケーション (3時間) 通学(1.5時間)通信(1.5時間)	介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割、コミュニケーションの技法・道具を用いた非言語的コミュニケーション、利用者・家族のコミュニケーションの実際、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際について講義・演習を行う。視覚障害や失語症等、障害に応じたコミュニケーション技術について演習を行ってみる。
② 介護におけるチームのコミュニケーション (3時間) 通学(1.5時間)通信(1.5時間)	介護にかかわる情報の共有化の手段としての記録の意義・目的、理解し、報告の必要性、コミュニケーションを促す環境について講義・演習を行う。事例を使つての事故報告書を実際に記載してみる。

6. 老化の理解(6時間)	
科目の細目	講義と演習の実施方法
① 老化に伴うところとからだの変化と日常 (3時間) 通学(2時間)通信(1時間)	老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴、老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響について基本理解を深める。高齢に伴う疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明する。介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性や高齢者疑似体験セットを用いた疑似体験を実施する等の講義・演習を行い気づきを促す。
② 高齢者と健康 (3時間) 通学(1時間)通信(2時間)	高齢者の疾病と生活上の留意点、高齢者の多い病気とその日常生活上の留意点について講義・演習を行う。

7. 認知症の理解(6時間)	
科目の細目	講義と演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況 (1時間) 通学(0時間)通信(1時間)	認知症ケアの理念について講義・演習を行う。その人らしさを支援するパーソンセンタードケアや周辺症状を軽減するケアの視点をグループワークにて討議するなど理解を深める。
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 (2時間) 通学(1時間)通信(1時間)	認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアポイント、健康管理等の必要性について講義・演習を行う。
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 (2時間) 通学(2時間)通信(0時間)	認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴、認知症の利用者への対応について講義・演習を行う。テキストの事例を用いて、生活環境で工夫できる点についてグループワークで議論し、グループ毎に発表してみる。
④ 家族への支援 (1時間) 通学(0時間)通信(1時間)	認知症の受容過程での援助方法、レスパイトケアについての講義・演習を行う。家族の介護負担について、テキストの事例等を使って、負担のない声のかけ方やねざらいについてグループで話し合ってもらおう。

8. 障害の理解(3時間)	
科目の細目	講義と演習の実施方法
① 障害の基礎的理解 (1時間) 通学(0.5時間)通信(0.5時間)	障害の概念とICF、障害者福祉の基本理念等について講義・演習を行う。ICFの構成要素について、図表を使って確認し、「できている状態」を伸ばす支援の理解を深める。
② 障害の医学的側面、心理・生活障害、かかわり行動の特徴、支援等の基礎知識 (1時間) 通学(1時間)通信(0時間)	身体障害、知的障害、精神障害等の基本的理解を深め、支援の方法等の講義・演習を行う。片麻痺を疑似体験してみる。障害の受容について、利用者の立場に立った視点を考えてみる。グループワークで討議してみる。
③ 家族の心理、かかわり支援の理解 (1時間) 通学(0時間)通信(1時間)	家族への支援について講義・演習を行う。テキストの事例を使って、障害に対する家族の受容過程について理解を深める。

9 ころとからだのしくみ生活支援技術(75時間)	
科目の細目	講義と演習の実施方法
① 介護の基本的な考え方 (3時間) 通学(0時間) 通信(3時間)	テキストに沿って、理論に基づく介護、法的根拠に基づく介護について等を自宅学習・通信課題等で理解を深める。
② 介護に関するころのしくみ基礎的理解 (3時間) 通学(0時間) 通信(3時間)	テキストの沿って、学習と記憶、感情と意欲の基礎的理解、自己概念と生きがい、人体各部の名称と動き、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、ころやからだの各持ち方が与える影響について自宅学習・通信課題にて理解を深める。
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 (6時間) 通学(1.5時間) 通信(4.5時間)	人体各部の名称と動きに関する基礎知識、骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、ころとからだを一体的に捉え、利用者の様子の普段との違いに気づく視点について講義・演習を行う。基本的なバイタル測定の実習を行う。
④ 生活と家事 (3時間) 通学(3時間)	家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援について講義・演習を行う。掃除や洗濯、衣類補修の実習を行ってみる。又、栄養摂取について、「食事バランスガイド」を使って演習してみる。
⑤ 快適な居住環境整備と介護 (3時間) 通学(3時間)	快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者、障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法、介護保険による住宅改修等について講義・演習を行う。
⑥ 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 (3時間) 通学(3時間)	整容に関する基礎知識について講義を行う。整容の各支援技術について演習を行う。
⑦ 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 (7時間) 通学(7時間)	移動、移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介護者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援の講義を行い、支援方法についての演習を行う。
⑧ 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 (7時間) 通学(7時間)	食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援の講義を行い、支援方法についての演習を行う。
⑨ 入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 (7時間) 通学(7時間)	入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法の講義を行い、支援方法についての演習を行う。
⑩ 排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 (7時間) 通学(7時間)	排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法の講義を行い、支援方法についての演習を行う。
⑪ 睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 (7時間) 通学(7時間)	睡眠に関連する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法の講義を行い、支援方法についての演習を行う。
⑫ 死にゆく人に関したころとからだのしくみと終末期介護 (7時間) 通学(7時間)	終末期に関する基礎知識ところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合う心の理解、苦痛の少ない死への支援の講義を行い、事例や体験等含め演習・グループワークを行う。
⑬ 介護過程の基礎的理解 (7時間) 通学(7時間)	介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチについて講義・演習を行う。個別援助計画の作成演習により展開に理解を深める。アセスメント、介護計画、介護手順の作成。
⑭ 総合生活支援技術演習 (6時間) 通学(6時間)	事例の提示→ころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題(一事例、1.5時間程度で上のサイクルを実施する)

10. 振り返り(4時間)	
科目の細目	講義と演習の実施方法
① 振り返り (2時間) 通学(2時間)	研修を通して学んだことや、今後継続して学ぶことについて受講生同士で意見を交換し、今後の学びにつなげていく。
②就業への備えと研修終了後における継続的な研修 (2時間) 通学(2時間)	継続的に学ぶべきことを再確認。今後の学びについて具体的なイメージを持てるよう実際の研修の具体例を挙げる。(OFF-JT.OJT等)
合計	130時間

※「講義と演習の実施方法」は文章で具体的に記載すること。単語のみの羅列は不可。